

市長記者会見記録

日時：2016年8月4日（木）午後2時00分～2時35分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：（話題提供）

川崎市・富川市友好都市提携20周年記念事業について（総務企画局）

<内容>

<川崎市・富川市友好都市提携20周年記念事業について①>

司会： それでは、ただいまより市長記者会見を始めます。

本日は市政一般となっております。

初めに、福田市長から、川崎市・富川市友好都市提携20周年記念事業について話題提供させていただきます。それでは、市長、お願いいたします。

市長： よろしく申し上げます。まず、韓国・富川市との友好都市提携20周年事業について話題提供させていただきます。

本市と富川市は、1996年に友好都市提携を結び、これまで文化・芸術・スポーツなど幅広い分野で官民間わず活発な交流が行われてまいりました。20周年を迎えた今年、2月には、金晩洙市長をはじめとする代表団が来川され、さまざまなイベントに出席をしていただきました。

先日の21日から23日にかけては、石田議長、鈴木商工会議所副会頭との本市代表団をはじめとする約180名の訪問団で富川市を訪問し、金晩洙市長と交流推進確認書の取り交わしを行ったほか、富川商工会議所の訪問、プチョン・フィルハーモニック・オーケストラとテアトロ・ジューリオ・ショウワ・オーケストラとの合同演奏会の鑑賞など、行政・企業・市民など、さまざまなレベルでの交流事業に参加しまして、今後の両市のさらなる友好関係のきずなを確認してまいりました。

今回は、青少年のスポーツ交流として、富川市をホームとするプロサッカークラブ・KリーグチャレンジのプチョンFC1995のU-15をお招きし、等々力陸上競技場において川崎フロンターレU-15及び川崎市選抜チームとの交流試合や、3チームの選手団の交流会などを行い、両市の交流推進を図ってまいります。

また、今後の周年記念事業につきましては、8月の韓国非言語パフォーマンス「ナンタ」と伝統芸術の「サムルノリ」の公演、11月の「かわさきジャズ2016」における記念ライブを予定しております。私からは以上です。

司会： ありがとうございます。

それでは、市政一般の質疑とあわせて質疑応答をお願いいたします。進行につきましては、幹事社様、よろしく申し上げます。

《相模原市障害施設殺傷事件について①》

幹事社： 幹事社です。両社から質問をした後、各社から質問させていただくという流れでやらせていただきます。まず、毎日から申し上げます。

3点お伺いします。いずれも相模原での障害者施設に対する職員、入所者への殺人事件の件です。

率直に、非常に悲惨な事件で、我々もその取材をしている中で非常に胸が詰まらせられる場面がたくさんありました。19人が亡くなるという痛ましい事件でしたけれども、これをお聞きになった市長の率直なご感想をお伺いしたいというのが1点です。

2点目は、こういった事件、障害者施設という弱者を狙ったような事件、なかなか警備のしようなどが難しい点もあろうかと思いますが、市として、こうした悲惨な事件を受けて新たな対応、例えば臨時の実地調査などで警備のことなどを確認する、ないしは、職員の勤務態度などを問いただすといったような、事件を受けての新たな対応などは考えていらっしゃるのかというのが2点目です。

3点目が、これは相模原市役所に、措置入院、被疑者は短期間ではありますけれども、措置入院をさせられていたという経緯がありました。措置入院の後に犯行を行ったということで、措置入院の期間が短かったのではないかとか、退院後にフォローをちゃんとしていなかったのではないかとということで苦情が100件以上寄せられるという事態になっています。川崎市に対してこれと類似した、例えば精神障害者に対して十分な措置入院、措置をとっているのか、欠けているのではないかとといったような批判であるとか、措置入院した後、しっかり市はフォローしているのかといったような確認を求めるような苦情といたしますか、そういった市民からの意見というのが電話や口頭などで寄せられているのでしょうか。寄せられているとすれば、今日までどれぐらい来ているのかというのを教えてください。

以上3点をまず申し上げます。

市長： まず、1つ目の一報を聞いたときの率直な感想ということでありますけれども、ニュース速報で知って、それを、文字づらを見たときに、ちょっと信じられないというのがその瞬間としての思いでした。事件の概要を知るにつけ、ほんとうに許しがたい卑劣な事件でありまして、二度とこのようなことがあってはならないなという

ふうに思いました。

2つ目の防犯対策など、こういったことを市としてどう考えているのかということでもありますけれども、事件直後の26日、27日にかけて、安全対策に対する件を各施設に通知したほか、それから、電話でになりますけれども、担当者が聞き取り調査などを行っております。施設によっては、いわゆる防犯カメラを設置することを検討しているところもあるとか、あるいは、施錠時間を早めるなどといった工夫をそれぞれの施設で対応していると承知しております。

今後は、市としてもしっかり各施設の実態をまず把握して、防犯対策について意見交換を行ってまいりたいと思います。なお、国のほうでも安全対策などについて検証されるということでもありますので、こういったことも加味しながら、それぞれの施設を運営している団体などと協議をしてまいりたいと思っています。

それから、措置入院に対して何か川崎市に対して苦情などがあるかということでもありますけれども、そういった苦情、あるいはそういうものは寄せられていないと聞いております。

幹事社： 同じく今月の幹事社です。

津久井やまゆり園の件で、私も1点伺ってもよろしいでしょうか。

市長： はい。

幹事社： 今回、この事件をめぐって、被害者の氏名を公表するかしないかということで議論になっているんですが、メディア側が実名公表というのを強く求めているのに対して、県警は完全にこれを拒否して、県はきのう自治体のみ発表するという、この現状なんですけど、この実名公表の是非を含めて、この議論をどのように見ていらっしゃいますか。

市長： そうですね、私もこの議論というのは、さまざまな、障害者団体からもさまざまなご意見があると聞いています。そういった人権の問題もあると思いますが、さまざまなご意見あると思いますので、こういった議論を少し重ねるべきなのではないかと思っています。

幹事社： 仮に、県は県警に準じて公表しないということだったんですが、仮の話なんですけど、同じような状況になった場合というのは、市としてどのような判断をされると思いますか。

市長： 一義的には、被害者の家族の方の人権だとかプライバシーを尊重されたんだと思います。そのことについては私も理解をしています。

ただ、事件報道なのに被害者の、公表されないというのは、ややどうなのかという

側面もあるなというふうに僕も思っているのですが、一言でいい悪いというのは言いがたい課題かなとは思っています。

幹事社： ありがとうございます。各社、お願いします。

幹事社： 各社が言う前に、もう一点だけ。

先ほど質問させていただいた点でもう少し掘り下げてお聞きしたいんですが、2点目のところで、安全対策について各施設に確認をして、聞き取り調査などを行っている。具体的にどういった内容について確認をして、聞き取りなどを行っているのか。防犯カメラの設置を予定している施設はどれぐらいあるのかとか、今後意見交換していききたいというのは、例えばスケジュール感として、いつぐらいまでに市として施設からの意見を集約したいとか、新たに市内にこういうチームをつくるとか、そういったプランがあれば教えてください。

市長： 最後の質問から言うと、なるべく早く意見交換を行っていききたいと思います。特に、こういった施設の、指定管理で出しているところがありますので、そういった意味では密接な、何ていうんでしょうか、状況の把握ですとか意見交換ということが最も大事なことだと思っていますので、そういった意味でこれまでもやってきていると思いますが、安全対策については、今回の事件を機にしっかりと早急にやっていききたいと思います。

残りの話については、少し細かい話ですので事務方からでもよろしいでしょうか。

幹事社： 構いません。

健康福祉局障害計画課長： 障害計画課長の柳原でございます。

聞き取りを行った数、とりあえず当日、翌日の電話で聞き取りを行った数は、同様の障害者の入所施設5施設でございます。その後、実態の把握を行おうとしている施設に関しましては、同じく障害者の施設5施設、プラス、障害児の入所施設が2施設ございまして、プラス、知的障害者の福祉ホームが1施設ございますので、計8施設を考えているところでございます。早急に文書を送って実態把握を行ってまいりたいと考えております。以上でございます。

幹事社： では、各社、お願いします。

記者： 今のに関連して、具体的な訓練計画とか防犯対策の訓練計画みたいなことってやっぺらっしやるんですか。

市長： 事務方から。

健康福祉局障害計画課長： 具体的には、防犯とかの訓練の計画等はまだ詰めておりませんで、今後施設と実態把握をして情報交換をしていく中で、そういうところも考

えていければと考えているところでございます。

《川崎市・富川市友好都市提携20周年記念事業について②》

記者： 別の質問というか、最初の質問に戻っちゃっていいですか。

市長： はい、どうぞ。

記者： 試合を市民の方が見たいとかいうことは可能なんですか。U-15の。

市長： 富川市との交流ですか。

記者： はい。

市長： これはもちろん可能だと思いますが、ちょっと、はい。

総務企画局庶務課担当課長： 総務企画局庶務課国際担当の山口でございます。

実際には試合、等々力陸上競技場でやりますので、見たいとおっしゃる方については来ていただいて構わないと思いますので、その場合にはこちらの国際担当のほうに案内していただければ結構だと思います。

記者： 特に事前の申し込みとかなくても、行けば見ることができると。

総務企画局庶務課担当課長： 大丈夫です、はい。

記者： ありがとうございます。

《ポケモンGOについて》

記者： 市長は、ポケモンGOはやられていますでしょうか。

市長： いえ、やっておりません。

記者： 対象施設となる場所の除外要請ですとか、今後の市としての有効的な活用方法なんかを考えているようであれば、お聞かせいただければ。

市長： 1つ、ポケモンGOに関しては2つの側面あると思います。要は、歩きスマホじゃないですけども、ちょっとそれをやり過ぎて危険だということの安全対策を注意喚起していかなくちゃいけない側面と、それから、うまくポケモンGOを利活用して集客などに結びつけている、一部報道などでもされておりますけれども、商店街などでうまく使っているという取り組みもございますので、両方を、両軸回していかなくちゃいけないと思っています。

特に、川崎市の関連施設で何か苦情だとか混乱が起こっているということは、今のところ聞いておりません。ですので、ポケモンGO、利活用の部分については、民主導でぜひさまざま取り組んでいただきたいなとは思いますが、一方で、市民の安全を守る立場からいうと、この利用についてはほんとうに、学校などを通じて、夏

休み期間中ではありますけれども、メールで注意喚起などを行ったりさせていただいております。そういったところに配慮していかなくちゃいけないなどは思っています。

《相模原市障害施設殺傷事件について②》

記者： すいません、相模原の関係に戻って。事件の凄惨さというのはもちろん一方であって、その供述内容のほうで、障害者は要らないとかということを行っているらしくて、それに対して障害者団体の方とか、あそこまでの思想を持っているというのはほんと特異なケースなんだと思われるんですが、ややそれに同調してしまうようなムードを感じて、いろんな抗議声明を出している動きがあるんですけども、ちょうど川崎市はパラムーブメントというか、健常者と障害者が何でもまざり合うような社会を目指していこうということを取り組んでおられると思うんですけども、そういったお立場からこういった動きというんでしょうか、供述の内容とか、差別と偏見が助長されてしまうんじゃないかと気にしている団体の方たちも非常に多くいらっしゃるという現状について、何か所感を伺えればと思うんですけども。

市長： ちょっと、犯人像というか、どういう、ちょっと、あまりにも信じがたいという、特異性というか。なので、ちょっと一般的な感覚ではまるでない話なので、かなり異常性を持っているとしか言いようがないものですから、これが、こんなことを思っている人なんて、まあ、いないだろうというふうに思いますから。ちょっと、全体の事件の全容解明というのが進んでいくと、もう少しわかってくるのかもしれませんが、今の段階では何とも、ちょっと異常性としか言いようがないというかですね。ちょっと答えになっていませんけど、すいません。

記者： 先ほどの幹事社さんの質問に関連するんですけども、安全対策を強化していくと、施設と地域とのかかわりが薄れちゃうとか、交流の機会が減ってしまうとか、そういう心配もあると思うんです。その辺なんかはどんなふうに、川崎市として向かう方向と、またちょっと違う方向なんだと思うんですけど。

市長： そうですね。ですから、そこが多分、施設運営しているところの大事なところだと思います。なるべく地域とのかかわりということが大事ですから、何か施設するとか、防犯対策を強めることによって地域と分断とか、あるいは、時代が何十年もさかのぼるような隔離みたいなことがあっては決してならないと思いますから、そのバランスをどうとっていくかというのは、非常に難しい課題だとは思っています。ですから、そのあたりはどうやっていこうかというのは、施設運営者と話して、よくコミュニケーションとっていきたいと思っています。

《リオ2016オリンピック・パラリンピックについて》

記者： すみません、全然話がかわってしまうんですけども、明後日から、日本時間ですけど、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが始まるということで、川崎でもゆかりの選手が10選手ほどか、出場するというので、メダルが期待できる選手たちもいっぱいいると思うんですけども、市長の中で今、その中で特に、例えば注目している選手、もしいらっしゃれば教えてほしいのと、あと、せっかくなのでエールを送っていただければと思います。

市長： 川崎市出身のみならず、全ての日本人オリンピック、パラリンピアンにぜひ最高のパフォーマンスを期待したいなと思います。これまで訪問、オリンピックの皆さんには何名か来ていただいていますけれども、表敬訪問のときにも申し上げたとおり、水球の荒井選手だとか、あるいは、バスケの町田選手といった、世界で最も小さい選手が世界の舞台で大きく活躍するということにも、ちょっと違う見方というか、そういったところも見どころではないかと思しますので、ぜひ市民の皆さんも、なかなか世界レベルの、例えば水球をみんなで応援しようという機会ってなかなかないと思いますから、ぜひ小さな巨人というか、そういうパワフルなプレーを知っていただく、見ていただく、いききっかけになるのではないかなと期待しています。

《ヘイトスピーチについて①》

記者： ありがとうございます。

あと、すみません、ちょっと今、聞く順番を間違えたんですが、これも完全に話がかわっていくんですけども、ヘイトスピーチの関係になるんですけども、法務省がおととい、例の行っていた男性に人権侵害だというふうに認定して勧告をしたと、強制力はないですけども、こうした国の動きをどのように見ていらっしゃるかというのを一言いただけますか。

市長： 何ていうんでしょうか、妥当だなというか、そういうふうには思います。認定したということで、そうだろうというふうに思いますし、国がそういうふうに認定したということは意義深いことだというふうには捉えています。

《普通交付税不交付団体について》

記者： 先月末の普通交付税の大綱で、6年ぶりに不交付団体になるということが決まったということなんですが、それについての、政令市で唯一ということもあるので、何か所感がございましたら。

市長： 6年ぶりということでありましてけれども、6年前は不交付ではあったんですけど、臨時財政対策債というのが、額がでかかったものですから、そういった意味では臨時財政対策債の額もゼロという形になるので考えると20年ぶりということになりますので、大変うれしいことでもあります。これは川崎の人口も伸びていますし、固定資産税も含めて伸びているということは、大変市民の皆さん、企業の皆さんにも感謝したいと思いますし、こういった発展が持続的に発展できるようにこれからも力強い産業都市と安心のふるさとづくりに邁進していきたいと思っています。

《公共施設利用料金等の見直しについて》

記者： 先日の市議会の委員会のほうで、全庁的な公共料金の見直し、使用料ですか、見直しで、23施設の料金を上げるという方向と、あと手数料ですか、産業系のごみの手数料を上げるとかという考えを報告したと思うんですけども、議会のほうからは行革の成果とか、その辺が見えにくい中で、16年ぶりぐらいですか、まとめてこういうふうなものを出すというのはどうなんだというような、やや厳し目の意見も出ていたんですけども、その辺に関しては、料金を上げることに対するお考えと、あとは、そういう批判的な見方に対する考え、この2点を聞かせてください。

市長： これまでも使用料・手数料の見直しについては、かなりの時間をかけて議会に報告してきて、考え方というものを説明してまいりました。ですから、受益と負担の公平性というか、公正性というものを正していく意味でも、かなり、利用している人と、していない人の不公平感だとか、そういうものをしっかりと是正していくという意味でのことでもありますので、単純に料金値上げとかというふうなことではなくて、しっかりとそのあたりを是正していくということが考えの根本にあるということを理解していただかないといけないなとは思っています。

こういった説明は、今後始まる議会の中でもしっかりと丁寧に説明して、市民の皆さんにもご理解いただけるような、そんな説明をこれからしていきたいと思っています。

記者： もう一点、関連なんですけれども、今回、上げたこと以外の行政改革の計画のほうでは、福祉系の、例えば高齢者のバスの減免とか、そういったものもいろいろ含まれていたと思うんですけども、そのほかの、要するに公共料金の見直しというんでしょうか、受益と負担の見直しというのは、ほかの福祉局の関係とか、もろもろであったと思うんですけども、その辺についてはどんなスケジュール感で見直そうとかかどうなのかというのは、今後どう進んでいくんでしょうか。今回の値上げのプ

ランに入っていないものというんでしょうかね。

市長： 今後の話ですので、ちょっといつかとかというふうな話はまだ確定したものではありません。

記者： 上げないということではないですか。

市長： 課題として認識していますので、そのあたりは、いつやるかというのは別ですけれども、課題としては認識しています。

記者： 引き続きどうするかというのは検討すると。

市長： はい。

記者： わかりました。

《ヘイトスピーチについて②》

市長： どうぞ。

記者： 先ほど、ヘイトスピーチの質問が出て、大変意義深いという市長のご回答があったんですけれども、たしか川崎市のほうでヘイトスピーチを規制するような条例を検討しているように、ちょっと伺っているんですけれども、その条例は引き続き、また条例化するかどうかということを引き続き検討して、検討しているのであれば、いつごろまでに条例化するしないみたいな結論を出したりするかとか、その辺の条例をめぐる見通しみたいなものをちょっとお聞かせ願えれば幸いなんですけれども。

市長： 条例化するしないというふうな話は、条例を検討しているかといったら、そうではありません。前回の記者会見でこのことを発表させていただいているんですが、審議会のほうに、今年度中までにヘイトスピーチの方策というものがどういったものが必要かということを審議会の専門部会のほうに依頼をしています。答申を依頼して、その中の短期的な課題として今年中に答申をもらう、答申と言わないんですかね、報告をいただくということになっていますので、それを踏まえて今後のあり方について検討していくということです。

《東京都知事選挙の結果について》

記者： ちょっと市政と直接関係なくて恐縮なんですけれども、この前の会見でも伺った都知事選の関係で、ちょっと政策論争がないねということで結構厳し目のことを市長はおっしゃっていたと思うんですけれども、結果として初の女性知事という、小池知事というのが誕生したんですけれども、この選挙の結果と、今後期待することというんでしょうか、期待しなければいけないでもいいんですけれども、ちょっと所感を

聞かせてください。

市長： この前コメントしたとおりで、そんなに、選挙全体で政策議論が進んだかと、論争が行われたかというのは、私としてはそうではなかったのではないかなというのが全体の選挙を通じて思ったことですが、一方で、投票率がかなり上がったということは、それだけ都民の関心も高かったということで、都政に都民が参加したということは、これは大変意義深いことだと思いますので、新しいリーダーのもとに首都東京としての力を発揮していただきたいなどは思っています。

記者： 勝因は何だと思っていますか。

市長： 何ですかね。うーん、何でしょうか。やっぱり知名度の高さというのも多分あるんでしょうけれども、小池さんの魅力というところは伝わったんじゃないでしょうか。何でしょうね。

《羽田空港の新飛行経路について》

記者： 先日、いわゆる羽田空港の国際化の中で、新しいルートが発表になって、発表というか了承されて、特に世田谷でしたっけ、都内を通るルート、いわゆる着陸ルートについては、一部、東京都の区のほうから、住民からもいろいろ不満の声が出ているみたいなんですけど、川崎の場合は、ちょうど出るルートになると思うんですけども、そのあたりについて、今回のルートについて、市長としてどのようなお考えでいらっしゃるかというのをお聞かせください。

市長： まず、各報道のほうで、自治体が了承という言葉を使って報道されていたのに、私はすごく、あれっ、何だろう、これっていうふうな、びっくりしたというか、了承という認識はございません。これまでの取り組みについて、国への一定の評価というのは、三浦副市長が出席した中で評価させていただいている部分はありますが、引き続き、川崎市として国に対して要望している項目というものもかなりございます。これについても引き続き求めていくという姿勢は全く変わっておりませんので、継続的な対応をこれからも求めていきたいと思っています。

記者： 今おっしゃった要望のところでは幾つかちょっと挙げていただいて、改めて挙げていただくとありがたいんですけども。

市長： それは、例えば防音対策のようなものは、一例だけ申し上げますと、例えば上空の一番近いところ、殿町の研究施設の真上を通っていくことになりますので、こういった研究施設は普通、防音対策工事の対象にはなっていないというものです。しかし、そういったところにもしっかりと配慮してもらいたいという要望でありますとか、

研究施設のみならず、こういった防音対策みたいなものは必要になってくると思いますので、ぜひこういったことは継続的にこれからも粘り強く求めていきたいと思っています。実際に飛行するまで4年間ありますから、その中で引き続き国と交渉していきたいと思っています。

《第3次安倍内閣について》

記者： さっき都の話が出ましたけれども、昨日ですか、第3次安倍内閣の閣僚が決まったということで、同じように地方から期待することなんかをお聞かせいただけたらと。

市長： 経済重視ということを掲げておられるので、そのところを力強く推進していただきたいなという、これは引き続きでありますけれども、ぜひそこに力を入れて頑張ってくださいたいなと、そこに期待しております。

記者： ありがとうございます。

《相模原市障害施設殺傷事件について③》

幹事社： ほか、いかがでしょうか。

じゃあ、最後1点だけいいですか。相模原の事件、やはりもう一度、最後に聞いておきたいと思うんですが、昨日も川崎の市民団体の方が事件に対して批判する声明を出されました。その中で、無抵抗、抵抗できない相手に対して、ああいった形で命を奪うと、非常に憤りを感じていらっしゃいました。障害者だけでなく、川崎の場合、ちょっと結びつけるのが強引な面もあるかもしれませんが、やはり同じような弱者の立場、マイノリティーの方々がヘイトスピーチに苦しんでいらっしゃると、そういったこともあります。

ただ、一方で、昨日、その障害者団体の方もおっしゃっていたんですが、何で障害者のためにお金を使わなきゃいけないのかとか、障害者福祉に対してあまり理解がないような言葉がいろんなところから飛び込んでくると。障害者に限らず、マイノリティー、やはり弱者に対する思いやりみたいなものがだんだん社会の中からなくなってきているようなことも我々取材活動の中で感じる場所があります。

そういったマイノリティーに対しても共生を掲げている川崎市のトップとして、そういった傾向に対してどのように感じていらっしゃるのか。全くそのように感じないということであればあれなんです、市長もそういったものは、世間の流れみたいなものを感じていらっしゃるのであれば、ぜひそういうものに対するお考え方、どうい

うふうにしていくべきか、川崎市として、市長としてどういうようにこういった問題、こういった世間の流れに立ち向かっていくのかという思いを聞かせていただけないでしょうか。

市長： そうですね。今回の事件ということだけでないということでも前置きさせていただきたいと思いますが、これは日本だけじゃなく、世界全体が寛容さを失ってきているのではないかということは、常々私は思っております。危惧しております。

ただ、川崎はご案内のように非常に多様性に富んだ歴史を持っていて、それがまさに川崎のプライドにもなっているのではないかと思います。人口の今6%は何らかの障害をお持ちなわけで、決してその障害を持っているということが他人事ではないはずで、高齢社会ですから、高齢になれば何らかの不自由さということを持っておられる方も多いですし、体だけじゃなく、いろんな面でケアを必要とされる方というのが、はっきり言って、100人いればおよそほとんどの人たちが何らかのケアなりというものを必要としているような、そういう社会じゃないかと思えます。

ですから、そういった、自分と違うということによって差別するということが、いかに、言葉は悪いですけども、ばかげていてということをしつかりと、やっぱり子供の段階からもしっかりと教えていく必要があるし、大人は大人の社会として、寛容さとか思いやりだとかという、人間として当たり前のようなことを、改めてそういった気持ちを大切にすることが僕は大事なんじゃないかと思っております。

そういう都市が、そういう町が結果的に、ちょっと陳腐な言葉になってしまうかもしれませんが、私の掲げる「最幸のまち」ということにつながっていくんだと思っております。

幹事社： ほかにないでしょうか。なければ、よろしいですか。

司会： 以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355